



中沢前遺跡第23地点
旧石器



神明後遺跡第16地点
屋外埋甕 1 (右端)
屋外埋甕 2 (右から2点目)
屋外埋甕 4 (左2点)



東台遺跡82号住居跡

例 言

1. 本書は、埼玉県入間郡大井町内に所在する遺跡群の2001年度の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は国庫（4,150,000円）県費（2,075,000円）の補助金の交付を受け、平成13年4月1日から平成14年3月29日まで、整理作業は平成13年4月1日から平成15年3月28日まで実施した。
3. 調査組織

調査主体者	大井町教育委員会	文化財保護係長	坪田幹男
担当課	生涯学習課文化財保護係	文化財保護係・庶務	高橋偕子
教育長	遠藤正明	文化財保護係・発掘調査担当者	高崎直成・鍋島直久
教育次長	池本敏雄	大井町臨時職員・発掘調査補助員	土本医(平成8年5月1日 ～平成14年8月31日)・早川由利子(平成14年9月17日～)
生涯学習課長	金子忠弘		
4. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。
 本書の執筆は縄文時代の遺物を今井堯、第Ⅸ章（2）を土本医、それ以外を鍋島が行なった。
 挿図割付：高橋けい子 写真図版割付：青山奈保美 土器復元：中田藤子 旧石器実測：土本医
 土器実測・拓影：青山奈保美、石垣ゆき子、須藤さち子、丹治つや子、福島雅子、山口妙子
 トレース：小林登喜江 表作成：植田勢津子、福島雅子 図版作成：青山奈保美、石垣ゆき子、
 須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、福島雅子 遺構写真：鍋島直久、高崎直成、土本医、坪田幹男
 遺物写真：小室 登（巻頭遺物写真）、鍋島直久、青山奈保美
 遺物洗浄・注記・石器実測の一部を（株）東京航業研究所に委託した。また、整理作業全般において日本考古学協会の今井堯氏の援助と協力を得た。
5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）
 会田明、浅野晴樹、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、市丸靖子、上田寛、内田賢司、越前谷理、大久保淳、岡田賢治、
 加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、小出輝雄、駒井和久、小室登、桜井信枝、
 笹森健一、佐藤啓子、島田一郎、高橋京子、田中信、丹治剛、中村愛、原口雅樹、早坂廣人、堀善之、
 松本新八郎、松本富雄、水村孝行、柳井章宏、柳沢健司、和田晋治、
 埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課、東久保土地区画整理組合、大井町立郷土資料館、大井町遺跡調査会
6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。
 〈発掘調査参加者〉（敬称略）
 浅野賢太郎、新井和枝、飯塚泰子、伊藤弘一、伊藤大地、井上晴江、海老原サナエ、大曾根キク子、大塚香、
 笠原英子、加藤智香子、金子君子、小林こずい、酒井昭、佐久間ひろ子、佐藤裕幸、篠崎忠三、嶋田侑一郎、
 鈴木英子、鈴木エミ子、関田成美、高貝しづ子、田畑真基、戸澤竹二、中嶋末子、新本伸枝、野岡由紀子、
 林きぬ子、比嘉洋子、増沢勝実、松村さとみ、三村美代子、村端和樹、横井治水、若尾久美子、若林紀美代
 〈整理作業参加者〉（敬称略）
 青山奈保美、石垣ゆき子、植田勢津子、小野太樹、小野寺佳代、加藤淳子、蕪木友美、鎌倉聖悟、
 小林登喜江、斎藤卓、椎名久美子、嶋田泰生、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、野口裕子、
 日比谷和美、福島雅子、前橋佑紀、丸山香織、本橋克則、山口妙子

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。
 - (1) 縮尺は原則として
 遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 炉などの詳細図 1:30
 土器実測図 1:4、1:3 土器拓影図 1:3 石器実測図 1:3、2:3 銭 1:1
 - (2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないものは同図版中の前遺構の海拔高に同じである。
 - (3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。
 攪乱  地山（ローム） 焼土 
 土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 礫○
 - (4) 土器実測図における screen-tone の指示。
 地文縄文 撚糸文
 - (5) 土器断面図は、「網目」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。
2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。
3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

第2表 2001年度埋蔵文化財調査一覧表

No	遺跡・地点名	申請地	調査面積 (m ²)	開発面積 (m ²)	原因	調査期間	調査措置
1	亀居遺跡第54地点	鶴ヶ岡2-28-17	56	148	個人住宅	13.4.24~13.4.27	試掘
2	亀居遺跡第55地点	鶴ヶ岡2-28-16	45	148	個人住宅	13.11.14~13.11.16	試掘
3	江川東遺跡第6地点	東久保1-168-7	15	71	個人住宅	13.7.17	試掘
4	亀久保堀遺跡第29地点	東久保29街区1.2.7.8画地	161	1,769	店舗	13.4.17 13.4.18~13.4.20	試掘調査後遺跡 調査会で本調査
5	東久保遺跡第41地点	東久保4街区6.7画地	37	112	個人住宅	13.5.28~13.5.29	試掘
6	東久保遺跡第42地点	東久保19街区10画地	160	864	駐車場	13.4.18~13.4.21	試掘
7	東久保遺跡第43地点	東久保15街区14.15画地	37	142	個人住宅	13.5.22~13.5.25	試掘
8	東久保遺跡第44地点	東久保19街区9・11・12画地	186	757	倉庫	13.5.10~13.6.29	試掘
9	東久保遺跡第45地点	亀久保258-21	31.5	100	個人住宅	13.6.1	試掘
10	東久保遺跡第46地点	東久保17街区3・4画地	49	135	個人住宅	13.6.4~13.6.6	試掘
11	東久保遺跡第47地点	東久保31街区6・13画地	321	1,203	店舗	13.10.11~13.10.26	試掘
12	東久保遺跡第48地点	東久保18街区9・10画地	178	518	分譲住宅	13.12.12~13.12.25	試掘
13	東久保遺跡第49地点	東久保13街区7画地	1	100	分譲住宅	14.2.12~14.2.13	試掘
14	東久保西遺跡第11地点	東久保12街区5・9画地	79	1,445	駐車場	13.6.11~13.6.12	試掘
15	東久保西遺跡第12地点	東久保11街区9・13画地	387	1,074	店舗	13.6.25~13.7.2	試掘
16	東久保西遺跡第13地点	東久保14街区11画地	27.2	275	個人住宅	13.10.13~13.10.26	試掘
17	東久保西遺跡第14地点	東久保11街区10画地	60	237	店舗	14.1.31~14.2.4	試掘
18	東久保南遺跡第24地点	東久保49街区6画地	420	1,051	共同住宅	13.4.2~14.4.8	試掘
19	東久保南遺跡第25地点	東久保49街区2・3画地	596.6	1,388	中古車展示場	13.9.26~13.10.12	試掘
20	東久保南遺跡第26地点	東久保63街区3画地	40.5	208	店舗	13.10.30~13.11.1	試掘
21	西ノ原遺跡第120地点	大井・苗間24街区4画地	466	1,120	共同住宅	13.5.7~13.5.15	試掘
22	西ノ原遺跡第121地点	旭1-15	764	803	個人住宅	14.2.7~14.3.8	教育委員会で本調査
23	西ノ原遺跡第122地点	大井・苗間14街区8画地	252	593	共同住宅	14.3.9~14.3.19 14.6.21~14.7.22	試掘調査後教育 委員会で本調査
24	中沢前遺跡第23地点	大井・苗間30街区1画地	85	261	個人住宅	13.5.11~13.5.15	試掘調査後教育 委員会で本調査
25	神明後遺跡第15地点	苗間字神明後293-15	50	163	個人住宅	13.4.11 13.4.12~13.4.13	試掘調査後教育 委員会で本調査
26	神明後遺跡第16地点	苗間字神明後309-14	189	165	個人住宅	13.7.23~13.7.24 13.7.25~13.9.3	試掘調査後教育 委員会で本調査
27	神明後遺跡第17地点	苗間字神明後369-1	7.5	581	個人住宅	14.3.28	試掘
28	苗間東久保遺跡第22地点	苗間645-11	6	99	個人住宅	13.10.25	試掘
29	浄禅寺跡遺跡第20地点	苗間字神明後351-1	17.6	223	倉庫	13.10.26~13.10.29	試掘
30	浄禅寺跡遺跡第21地点	苗間字東久保591-3,592-7	12	182	個人住宅	13.11.19~13.11.20	試掘
31	本村遺跡第96地点	苗間101街区5画地	99	301	個人住宅	13.7.10~13.7.13	試掘
32	本村遺跡第97地点	大井・苗間82街区11画地	40.5	132	個人住宅	13.7.11~13.7.12	試掘
33	本村遺跡第98地点	大井・苗間94街区1画地	17	144	学童保育所	13.12.17~13.12.19	試掘
34	東台遺跡第34地点	大井字東台624-2	608	1,414	共同住宅	14.3.12~14.3.25 14.3.26~14.5.8	試掘調査後遺跡 調査会で本調査
35	東台遺跡第35地点	大井字東台649-31	7.5	48	個人住宅	13.9.6~13.9.8	試掘
36	東台遺跡第36地点	大井字東台614	136	272	倉庫	13.10.15~13.11.2	試掘
37	東台遺跡第37地点	大井字東台626-12	101	100	個人住宅	13.10.12~13.11.5	教育委員会で本調査
38	東台遺跡第38地点	大井字東台614-3	400	787	駐車場	14.1.28~14.2.15	試掘
合 計			6,145.9	19,133			

XIV 東台遺跡の調査

1 遺跡の立地と環境

東台遺跡は東武東上線ふじみの駅の南約1km、砂川堀右岸の台地上に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。標高は24~26mで砂川堀との比高差は約5mで急崖をなし、左岸が緩やかな傾斜を成すのとは対照的である。

遺跡内には砂川堀に向かって小さな埋没谷が数本確認されている。遺跡の範囲は東西700m、南北250m、遺跡面積約170,000m²、町内で最大規模の遺跡であり、約17%の30,000m²を調査している。

旧石器時代の調査では、第18地点の調査で埋没谷に沿った崖沿いにナイフ型石器を伴う礫群等が分布する。今のところAT層以下で石器の検出はない。

縄文時代の調査では早期1軒、後期7軒、中期136軒の住居跡等多数の遺構と遺物が確認されている。

(2003年2月現在)特に中期の住居跡は複数の環状に配置する集落があり、武蔵野台地縁辺部における拠点集落の一つである。

奈良・平安時代には遺跡の北東部の第15・18地点で八世紀後半の製鉄炉や炭焼き窯など、県内でも有数の規模と古さを誇る製鉄関連遺跡を検出している。

周辺の遺跡は、砂川堀右岸の西約50mに大井戸上遺跡、西約300mに旧石器時代の西台遺跡が位置する。また砂川堀を挟んだ左岸に旧石器時代~近世の本村遺跡が位置する。今後旧石器時代では西台遺跡・本村遺跡との関係が、奈良・平安時代から中世にかけては本村遺跡との関係が注目される。



第73図 東台遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第74図 東台遺跡の調査区と遺構分布図 (1/2,000)

第15表 東台遺跡住居跡一覧表

単位cm () は推定

新住居 No	平面形	規 模	炉			埋甕	時 期
			地床	炉体	石囲		
1号	円形	550×?		○			加曽利 E I 新
2号	円形	400		○			加曽利 E I 古
3号	円形	?×510	○	○			加曽利 E I 新
4号	隅丸方形	700×750	②				加曽利 E II
5号	円形	460×470					加曽利 E II
6号	円形	420×430	○				加曽利 E II
7号	円形	510×525	②				加曽利 E II 古
8号	隅丸方形	530×465	○				加曽利 E I 新
9号	円形	約500					加曽利 E II
10号	円形	410×400		○			加曽利 E I 新
11号	円形	410×420	○				加曽利 E II
12号	円形						加曽利 E II
13号	円形	300×270	○				加曽利 E III
14号	円形張出	430×418	○			○	加曽利 E I 新
15号	円形	514×520			○		加曽利 E II 古
16号	長円形	525×424		○			加曽利 E II
17号	長円形・円形	478×422		○		○	加曽利 E II
18号	円形	523	②				加曽利 E I 新
19号	隅丸台	517		○			加曽利 E I 古
20号	長円形	658×583	○				加曽利 E I 中
21号	隅丸台	482×462			○		加曽利 E I 新
22号	円形?	切×292		○		○	加曽利 E II
23号	長円形	622×約470	○				勝坂Ⅲ
24号	長円形	東は区域外		○			加曽利 E II
25号	長円形?	西南攪乱		○			加曽利 E II
26号							勝坂
27号	長円形	部分発掘					時期不明
28号	長円形	473×450		○	○		加曽利 E II 新
29号	?	切×563		②		○	加曽利 E II 古
30号	長円形?	切×532		○			加曽利 E II
31号	長円形	618×472		○			勝坂Ⅲ
32号	長円形	573×525	○				加曽利 E II
33号	柄鏡	?×520	○			○	称名寺
34号	隅丸方形	720×628		○			加曽利 E I
35号	長円形	510×540	○	○	○	○	加曽利 E II 古
36号	円形	西半部不明	○		○	○	加曽利 E IV
37号	長円形	530×420			○	○	勝坂Ⅱ
38号	隅丸方形	南半部未掘			○		加曽利 E I 新
39号	隅丸方形	大部分未掘		不明			加曽利 E II
40号	隅丸方形	南半部未掘	○				加曽利 E I 新
41号	楕円形	480×390	○				勝坂Ⅲ
42号	不明	南部・東部未掘	○				加曽利 E I 新
43号	長円形	650×600	○				加曽利 E II
44号	隅丸方形	550×未掘			○		加曽利 E I 新
45号	長楕円形	740×600	③		○		加曽利 E II
46号	楕円形	400×380	○				加曽利 E
47号	円形	300×未掘					阿玉台Ⅱ
48号	隅丸方形	南大部分未					加曽利 E I 新
49号	円形	560×550		○	○		加曽利 E II
50号	長円形	420掘380					阿玉台Ⅱ
51号	円形	330×310					勝坂Ⅰ
52号	楕円形	495×490	○	○			勝坂Ⅱ
53号	円形	340×310	○				勝坂Ⅱ
54号	円形	?×	○	○		○	加曽利 E I 古
55号	(円形)	半掘550		○			阿玉台Ⅱ
56号	(円形)	480×半掘		○			加曽利 E III
57号	円形	600×600	○	○		②	加曽利 E II
58号	楕円形	520×420		○			勝坂Ⅲ
59号	(楕円形)	560×半掘					加曽利 E I 新
60号	円形	520×510		○		○	加曽利 E I 新
61号							加曽利 E II
62号		1/4 調査		○			加曽利 E I 古
63号		一部調査		未掘		②	加曽利 E I 古
64号	(円形)	(436)×			○		加曽利 E III
65号		(490)×1/2調査		○			加曽利 E I 古
66号		668×660			○	○	加曽利 E I 新
67号		668×600					加曽利 E I 古
68号		(480)×1/3調査		未掘			不明
69号	(楕円形)	(580)×3/4調査			○		加曽利 E II
70号	円形	570×(510)	○				加曽利 E II 中
71号	不明	440×410		○			勝坂Ⅱ新
72号	隅丸(長)方形	(480)×					加曽利 E I 新
73号	楕円形	606×550	○			2・1	加曽利 E II 中
74号	楕円形	612×514		○			勝坂Ⅲ古
75号	柄鏡型	(590)×				○	堀之内
76号	円形	390×480			○		加曽利 E II 新
77号	隅丸六角形	595×480	○			○	加曽利 E II

新住居 No	平面形	規 模	炉			埋甕	時 期
			地床	炉体	石囲		
78号	不明	不明			○		加曽利 E II 新
79号	不明	不明		未掘			不明
80号	不明	不明		未掘			不明
81号	不明	不明	○				不明
82号	円形	(546)×		○			加曽利 E I 新古相
83号	不明	(3.1)					不明
84号	(楕円形)	不明(南大部分未掘)					
85号	楕円形	5.4×4.7	○				加曽利
86号	楕円形	(4.5×4.7)		○			大木 8b
87号	柄鏡型?	(4.25×5.7)		○		②	加曽利 E III
88号	(円形)?	(3.8×4.7)		○		○	加曽利 E III
89号	(円形)?	(3.3×3.3)		○			勝坂Ⅰ・阿玉台Ⅱ古
101号	円形	695×600		○			加曽利 E I 新
102号	円形	480×460	○				堀之内Ⅰ
103号	隅丸台形	700×615	②				加曽利 E I 新
104号	円形	500×500		○			加曽利 E I 新
105号	楕円形	460×430		○		○	加曽利 E I 新
106号	長円形	450×410			○		加曽利 E II 古
107号	楕円形	380×390	②				加曽利 E I 新
108号	長円形	395×325	○				加曽利 E IV
109号	楕円形						
110号	円形	406×406	○				加曽利 E I 新
111号	隅丸長方形	486×437	②			○	加曽利 E I 新
112号	円形	約420×408	○				加曽利 E
113号	隅丸台形	450×460		○	○	○	加曽利 E I 新
114号	長円形	510×450		○			勝坂末
115号	長円形	545×495	○				勝坂末～E I
116号	長円形	575×520	○				加曽利 E I 末
117号	柄鏡型?	(640)×590		○			加曽利 E IV
118号	隅丸方形	450×410~420	○			○	加曽利 E I
119号	円形	770×750		20号住居と重複			加曽利 E II
120号	柄鏡型	390×(750)		土器・石囲炉	○		加曽利 E IV
121号	方形	530×430					平安時代
122号	方形	400×370					平安時代
123号	楕円形	365×350					茅山下層
124号	正円形	465×455	○				加曽利 E II
125号	楕円形	420×370					阿玉台Ⅱ
126号	楕円形	465×420			○		加曽利 E I 新
127号	長楕円形	565×485	○				加曽利 E I 新
128号	隅丸方形	510×480			○		加曽利 E I 新
129号	隅丸方形	560×530	○				加曽利 E II
130号	楕円形	540×510	○				加曽利 E I 新
131号	不整形円形	600×580			○		加曽利 E I
132号	隅丸方形	494×(480)					加曽利 E I 新
133号	円形	580×520					加曽利 E I 新
134号	(楕円形)	(434×344)		○			加曽利 E I 古
135号	隅丸方形	532×452	○				加曽利 E II
136号	円形	460×396			○		加曽利 E I 新
137号	(円形)	(836×820)	○				加曽利 E II
138号	円形	470×490		○			勝坂
139号	柄鏡型	556×566				○	加曽利 E IV
140号	円形	372×340		○			勝坂Ⅲ末
141号	(円形)	(536512)		○			猪沢新
142号	円形	414×396		○			加曽利 E 最古
143号	(楕円形)	446×340		○			加曽利 E I 新古相
144号	円形	520×556		○	○		加曽利 E I 新
145号	円形	536×448		○			加曽利 E I 新
146号	(円形)	(526×454)	○				加曽利 E I 新
147号	(円形)	564×560		○	○		加曽利 E I 古
148号	?	436×		未掘			加曽利 E I 新
149号	円形	388×410			○		加曽利 E II
150号	(楕円形)	532×	○				加曽利 E II 新
151号	(隅丸方形)	(608×)		○	○		加曽利 E I 新
152号	円形	556×500		②			加曽利 E 最古
153号	(円形)	(616×544)		②			勝坂Ⅲ新
154号	(楕円形)	(364×544)	○				加曽利 E II
155号	(柄鏡型)	670×708				○	称名寺古
156号	(楕円形)	366×304	○				加曽利 E I 新
157号	円形	530×526	○			○	加曽利 E I 新
158号	(楕円形)	372×438		○			加曽利 E 直前
159号	(楕円形)	(686×530)					称名寺古
160号	円形	(488×484)					勝坂Ⅱ新
161号	(円形)	504×514	○				加曽利 E I 新
162号	?					○	加曽利 E IV
163号	(円形)	(216)×288	○				加曽利 E II 新
164号	?	(566×416)					加曽利 E II 新
165号	?	(350×496)	○				堀之内?

5 東台遺跡第37地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅の建設に伴うもので、原因者より2001年10月11日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置するため申請者と協議の結果、発掘調査を実施した。

調査は10月12日から全面を重機による表土除去の後、人力による表面精査を行なった。

調査の結果、縄文時代の住居跡2軒とピットを検出し、写真撮影・遺構測量等を行ない、11月5日埋め戻しをして調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①82号住居跡

【位置】遺跡の東部で、東側環状集落の一部に含まれる。

【形状】全体の形状は不明だが円形の可能性が高い。検出部の規模は南北方向の径が5.35mを測る。

【炉】住居中央部やや北よりに位置する。炉内の北よりに底部を欠いた深鉢を埋設し炉内は北側の一部以外は赤褐色に焼けている。平面形態は隅丸長方形に近い。規模は上端68×57cm、炉周辺の床面からの深さは23cmを測る。

【ピット】14本のピットを検出した。

【遺物出土状況】多量の土器片や石器が出土した。遺物量は住居跡中心部では床面上から覆土層全体に満遍なく出土し、住居壁際では少ない。

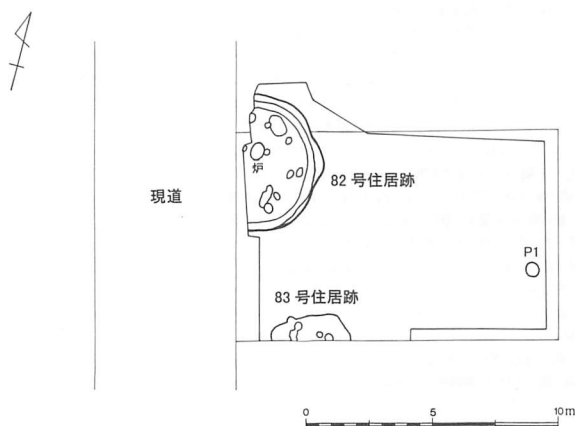
【時期】炉内埋設土器から加曽利 E I 新式古相。

第19表 東台遺跡82号住居跡ピット一覧表 単位cm

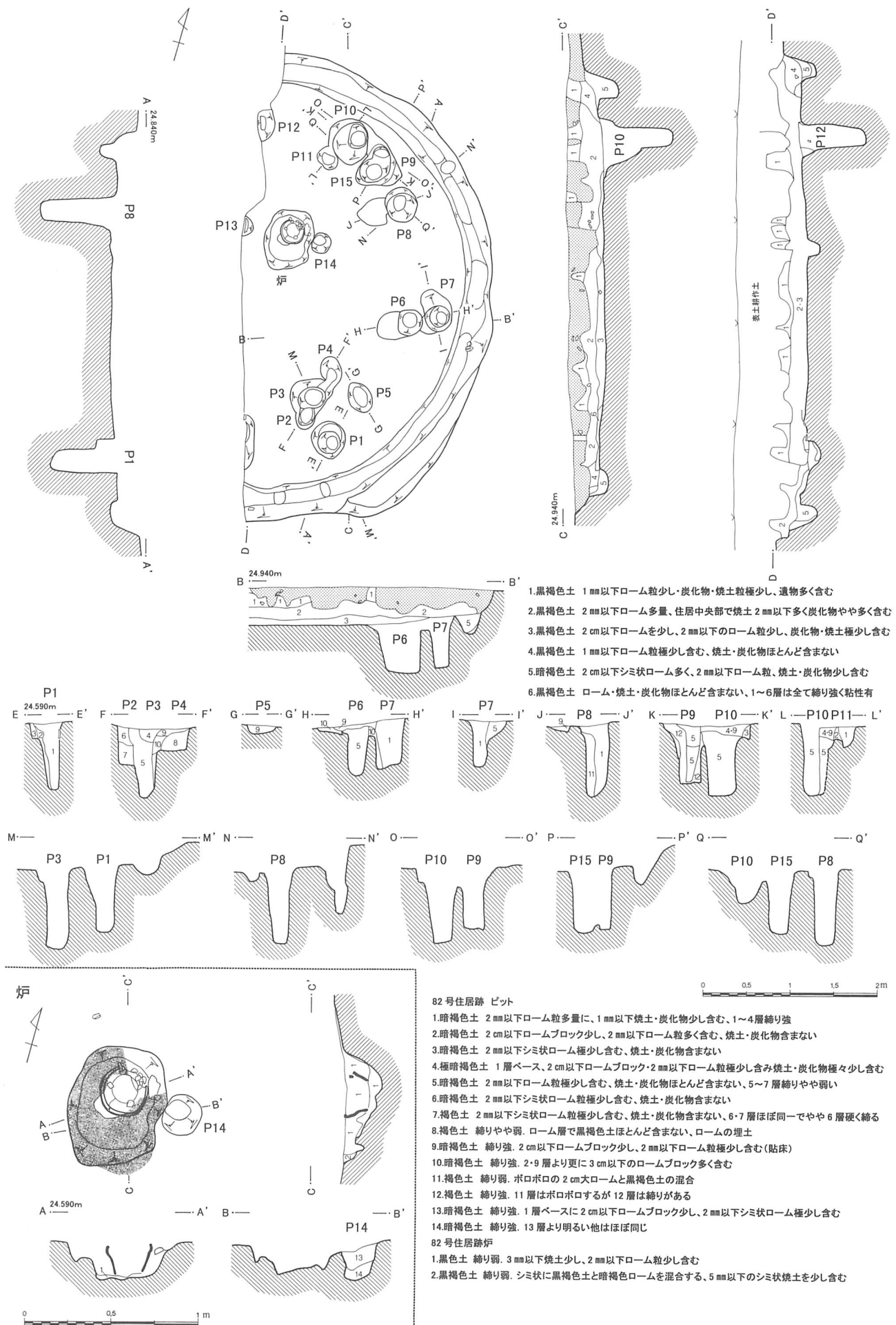
	形態	確認面径	底 径	深さ	備考
1	円 形	40～44	13～15	76.4	主柱穴
2	円 形	22～25	13～18	56.2	
3	円 形	42～47	18～19	84.1	主柱穴
4	円 形	24～30	10～16	28.5	
5	楕円形	26～38	15～24	13.1	
6	円 形	28～30	16～21	63.1	主柱穴
7	円 形	29～31	13	61.7	主柱穴
8	円 形	36～41	13～18	88	主柱穴
9	楕円形	16～20	11～19	70.7	主柱穴
10	円 形	41～50	17	79.7	主柱穴
11	円 形	20～26	15	25.7	
12	不 明	38	21	77.8	主柱穴
13	不 明	22	16	12.6	
14	円 形	21～24	11～12	22	
15	円 形	27～28	18～19	62.2	主柱穴

【出土遺物】 1は炉体土器で、口唇端を欠くが口縁部から胴中部までのほとんどを遺存し、口縁部最大径27.5cm・現存部高18cmである。口唇部を失うが口縁部文様帯は、横位ないし斜位施文の撚糸文を地文とし、2本組の貼付隆帯による連結文である。横 S 字状隆帯の先端が弧状ないし渦巻きを呈するが、1箇所のみ十字状文をつくる。口縁と頸部の境に横位の隆帯をめぐらせ、頸部は幅狭で無文地に半截竹管で大きく波形文を描く。胴部は撚糸文を深く緻密に施文して地文とし、半截竹管による沈線で、2本組の直下懸垂文を描くほか不整の杵状や小弧状を描く。胎土には、白色微砂粒・黒雲母・石英・橙色粒子を含み、焼成良好で黄褐色～暗褐色を呈する。器内面の中下部に二次被熱痕が著しい。土器の特徴は大本 8b 古相とも加曽利 E I 新式古相ともいえる。

2は、4つの波頭をもつ頸部がくびれた中型深鉢であり、口縁から底部までの約65%を遺存し、復元口径約23.5cm・器高約27cmである。波状口縁で波頭部には半截竹管による沈線がある。口唇外面と波頭下に隆帯を貼付け交互刺突を加える。口縁下から底部までの地文は密に施文された撚糸文であるが、文様帯は3区分されている。頸部は地文のみで、胴上半部との境は3



第87図 東台遺跡第37地点遺構配置図 (1/300)



第88図 東台遺跡82号住居跡 (1/60)、炉 (1/30)



第89図 東台遺跡82号住居跡遺物出土状況 (1/60)

本組の半截竹管による沈線をめぐらす、1ヵ所に段差がある。胴最大径部にも同様の沈線3本を入れ、胴上半部は半截竹管による波状文を入れる。胴中央部から底までは地文の撚糸文のみである。胎土には少量の粗砂粒と多量の微砂粒を多く含み、黄褐色ないし赤褐色を呈する。加曽利E I古式に併行する大木8a式とみられる外来系土器である。

3は口縁部の大部分と胴下半部を欠く深鉢形土器で現存部高20cmである。僅かに口縁部文様帯の下端には横位に施文された撚糸文があり、胴部との境には貼付隆帯をめぐらす。胴部文様帯は、全面に深く施文された細い撚糸文のみである。胎土に茶色細粒・白色微砂粒・貝粉を含み焼成良好で暗褐色を呈する。加曽利E I古式の典型である。

4は4つの小波頭をもつ筒形の深鉢形土器で口縁から底までの約40%を遺存し、復元口径17.5cm、現存部高23.7cmである。口縁の波頭部間には沈線で直立する口唇部をつくる。胴部文様帯は密に深く施文された細い撚糸文を全面に施文する。胎土・焼成・色調ともに3の土器に類似し、時期も同様である。82号住居の復元可能な準完形土器は加曽利E I古式と併行期の外来土器である。

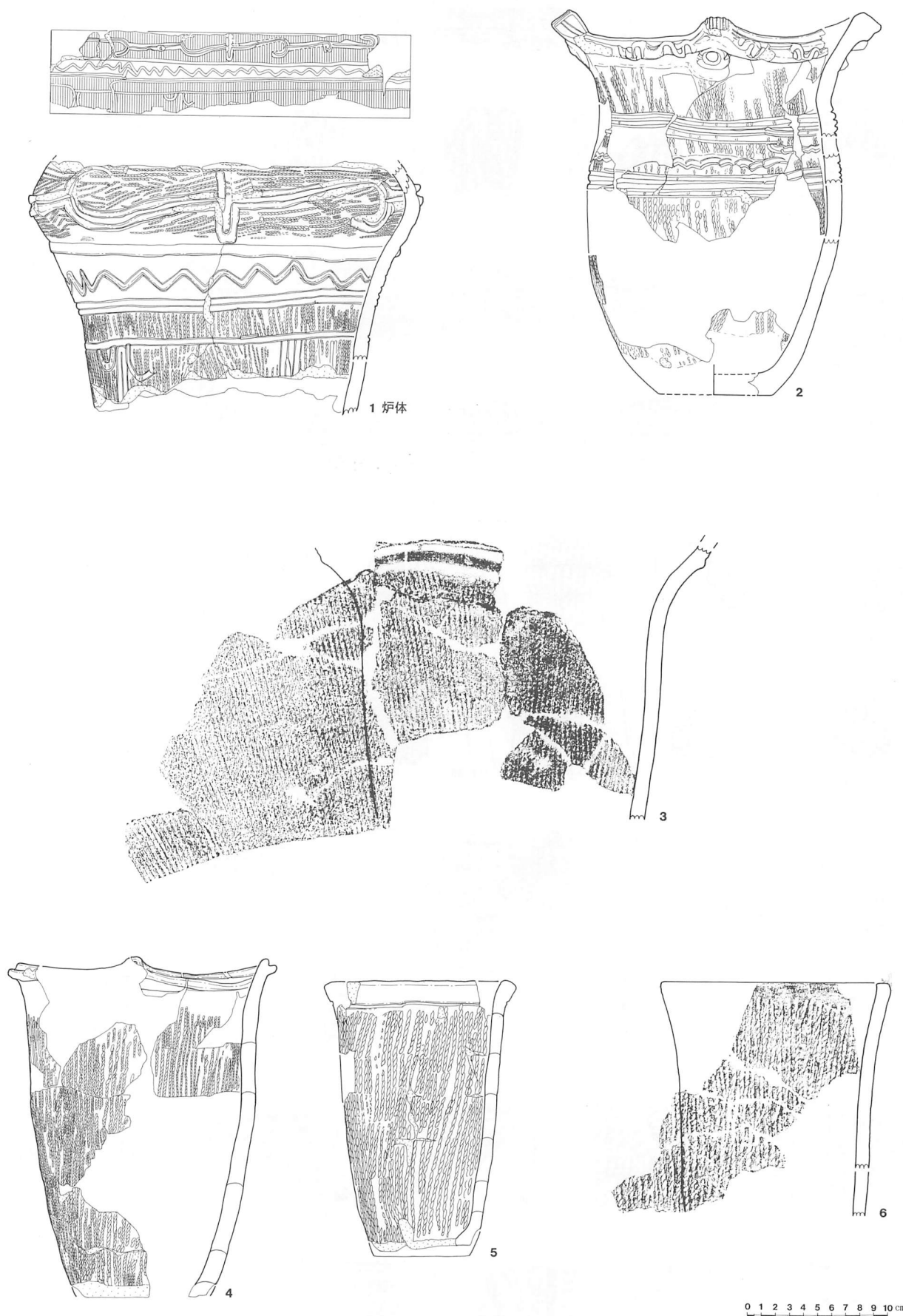
5は無文口縁の小型筒型深鉢で、底板を欠くのみのはほぼ完形で、口径13.7cm、現存部19.2cmである。幅1.5cmの無文口縁のほか、胴部には撚糸文が全面に施文されている。条間に広狭がある。胎土には白色微砂粒と石英粉末を含み、内面上部は丁寧に整形調整され、煤の痕跡はない。加曽利E I古式併行の小型深鉢形土器である。

6は無文口縁の筒形の深鉢形土器で、口縁から同中央部までの40%を依存し推定口径16cm現存部高16.5cmである。口唇直下から外面全面に深く密に撚糸文が施文される。胎土・焼成は3～5の土器とほぼ同様である。

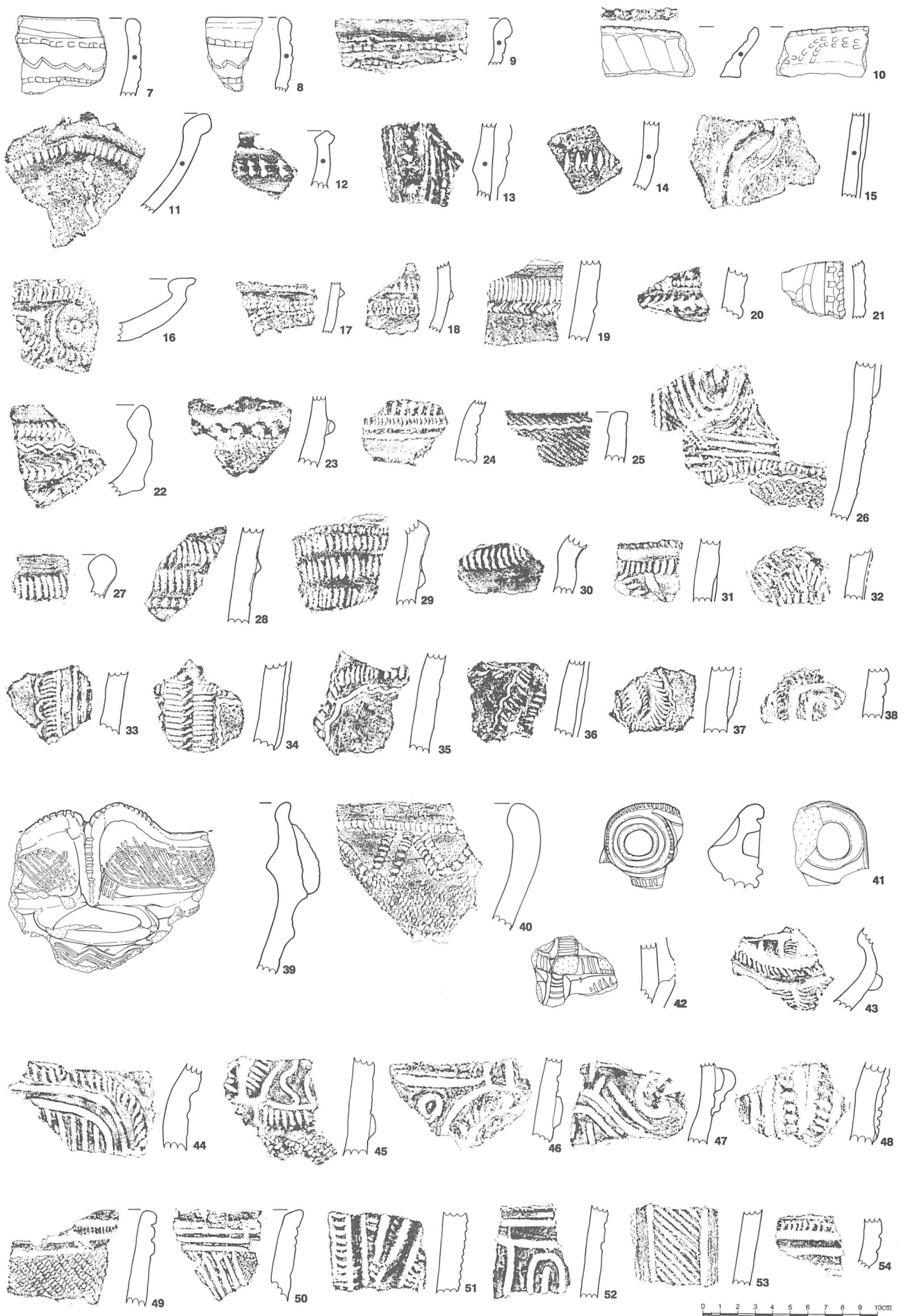
7～9は単列の角押文と押引による波状文をもち胎土に金雲母を含む猪沢式である。10～12は浅鉢形土器の口縁部で押引文をもつ。13は山形把手の破片で複列の細長押引文がある。14は連続爪形文をもつ胴部片である。15が断面三角形のクランク状懸垂文をもつ。12～15は阿玉台Ⅱ式である。16は幅広押引文による区画

内に三叉文をつくる。18～22は幅広押引文と粗大三角押文のセットである。23は隆帯に大きな刺突状の刻目と押引文を、24は隆帯に刻目と半截竹管の押引文を施す。25は全面に、26は胴部下半に細縄文を施文し上部に波形文をいれる。27～32は幅広押引文をキャタピラ状に施文する類である。33～37は短い幅広押引文で33は蓮花文を、34～37は波形文とセットになり、37は芋虫状のモチーフをつくる。38は隆帯上にC字型の刻目をいれる。16～32は勝坂Ⅱ式古相である。39は深鉢形土器の口縁部で複列の細長押引文をもつ。40は幅広押引文で三角形区画をつくり下半は全面細縄文を施す。41・42は剥離した把手部である。43～48は隆帯の区画上に刻目をもち、区画内外には沈線でモチーフをつくる。33～41は勝坂式である。48～54は円筒形の小型深鉢で、48・49地文縄文の他は棒状沈線で区画内を充填する。42～54は勝坂Ⅲ式である。55は深鉢形土器で口唇部に横8字型隆帯をもち地文縄文である。56～61は地文撚糸文で、文様帯が口縁部と胴部に二区分され、口縁部では撚糸文が横位を基調として施文される類である。細く高い隆帯で横位連結文や渦状文をつくる。62はこの類の口縁部文様帯下部で撚糸文を地文とする。63・64は全面撚糸文のみの胴部片である。56～64は加曽利E I古式である。65～70は地文撚糸文で頸部無文帯をもつ類の破片である。71・72は地文撚糸文で半截竹管による沈線の懸垂文をもつ胴上部の破片である。73は地文撚糸文で2本組直下懸垂文と不定形蛇行懸垂文を隆帯でつくる胴部下半から底部である。64～73は加曽利E I新式古相である。74～76は区画文・渦巻文を基調とする口縁部片で、地文縄文である。76の剥離した隆帯痕跡は十字状である。77は刻目隆帯のある突起部であるが、地文は棒状工具による沈線である。78～80は波頭部に突出した環状把手をもつ口縁部であるが地文は沈線文である。いずれも胎土にガラス光沢粒子を含み、55～73と併行期か。81～88は渦巻を中心に弧状沈線をめぐらす土器群であり、82・85には頸部無文帯がある。比較的細い棒状工具で沈線を重ねる類で、胴部の89・90と共に加曽利E I新式の併行期のものといえる。

91～102は石器で詳細は第20表のとおりである。



第90図 東台遺跡82号住居跡出土土器① (1 / 4)



第91図 東台遺跡82号住居跡出土土器② (1 / 3)



第92図 東台遺跡82号住居跡出土土器③ (1 / 3)



第93図 東台遺跡82号住居跡出土石器（1／3）

第20表 東台遺跡82号住居跡出土石器一覧表

単位cm・g

番号	種 別	石 質	重 量	番号	種 別	石 質	重 さ
91	打製石斧	砂 岩	90.9	97	打製石斧	砂 岩	154.3
92	打製石斧	ホルンフェルス	103.9	98	打製石斧	砂 岩	126.7
93	打製石斧	ホルンフェルス	128.9	99	打製石斧	砂 岩	107.1
94	打製石斧	砂 岩	50.6	100	打製石斧	砂 岩	68.6
95	打製石斧	砂 岩	106.7	101	打製石斧	砂 岩	38.3
96	打製石斧	砂 岩	180.1	102	磨製石斧	砂 岩	122.8

②83号住居跡

【位置】遺跡の東部で、東側環状集落の一部である。

【形状】全体の形状は不明である。検出部の規模は径3.1mを測る。

【ピット】4本のピットを検出した。

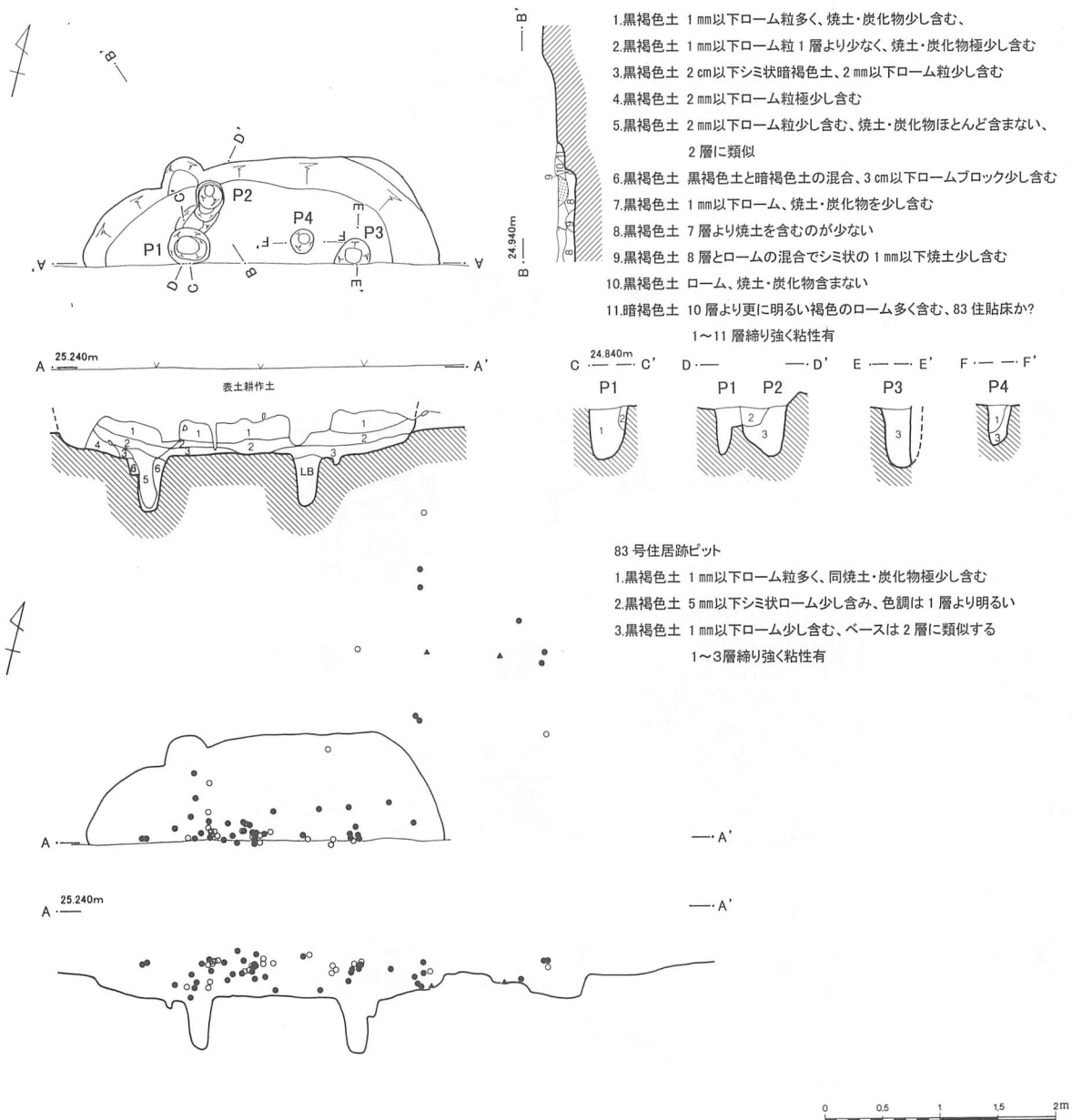
第21表 東台遺跡83号住居跡ピット一覧表 単位cm

	形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	32~36	15~19	46.1	
2	円形	24~30	8~10	46	
3	円形	27	13~14	49.4	
4	円形	21	9	36.5	

【遺物出土状況】床面出土の遺物はほとんど無く、覆土層の遺物が多い。住居跡の北東部分に攪乱とみられ

る跡がある。住居出土遺物は阿玉台Ⅱ式・新道式が目立ち、加曽利E式が少ない特徴がある。

【出土遺物】1は深鉢形土器の口縁部で、口唇直下に刻目隆帯で楕円形区画をつくり、区画間に玉状粘土を貼付し、区角の下方に複列の押引文と波状文で口縁部文様帯をつくる。2は鋭角の隆帯、3には指頭圧痕がある。4はクランク状懸垂文があり、5と6は無文胴部片である。1~6の胎土には金雲母を含む。7は懸垂文と爪形文をもつ胴中部片である。1~7は阿玉台Ⅱ式である。8は幅広押引文で三角区画をつくる。9には幅広押引文が、10には三角押文が多用される。8~10は新道式といえる。11は幅広押引文を多用し12は爪形を半円刺突で蓮花文とし、13は爪形文、14は隆帯



第94図 東台遺跡83号住居跡・遺物出土状況 (1/60)

上に爪形文、15は円形刺突文列を施す。16は筒形の深鉢でクランク状隆帯上に刻目を入れる。17は隆帯で渦巻文をつくり三叉文を入れる。18は刻目隆帯をもち地文は横位の撚糸文を施す。19は縦位に細縄文を全面に施文する。20～23は地文撚糸文を施し、23は貼付隆帯がある。24は無文口縁深鉢形土器で地文縄文である。25～29は地文縄文の胴部片である。11～13は藤内式である。14～29は勝坂Ⅲ式末ごろである。30は頸部片で31～34は無文浅鉢形土器の口縁部、31は厚手波状口縁である。35は地文縄文に連弧文を、36は地文縄文に磨消懸垂文を施す加曽利EⅡ式である。

③ピット

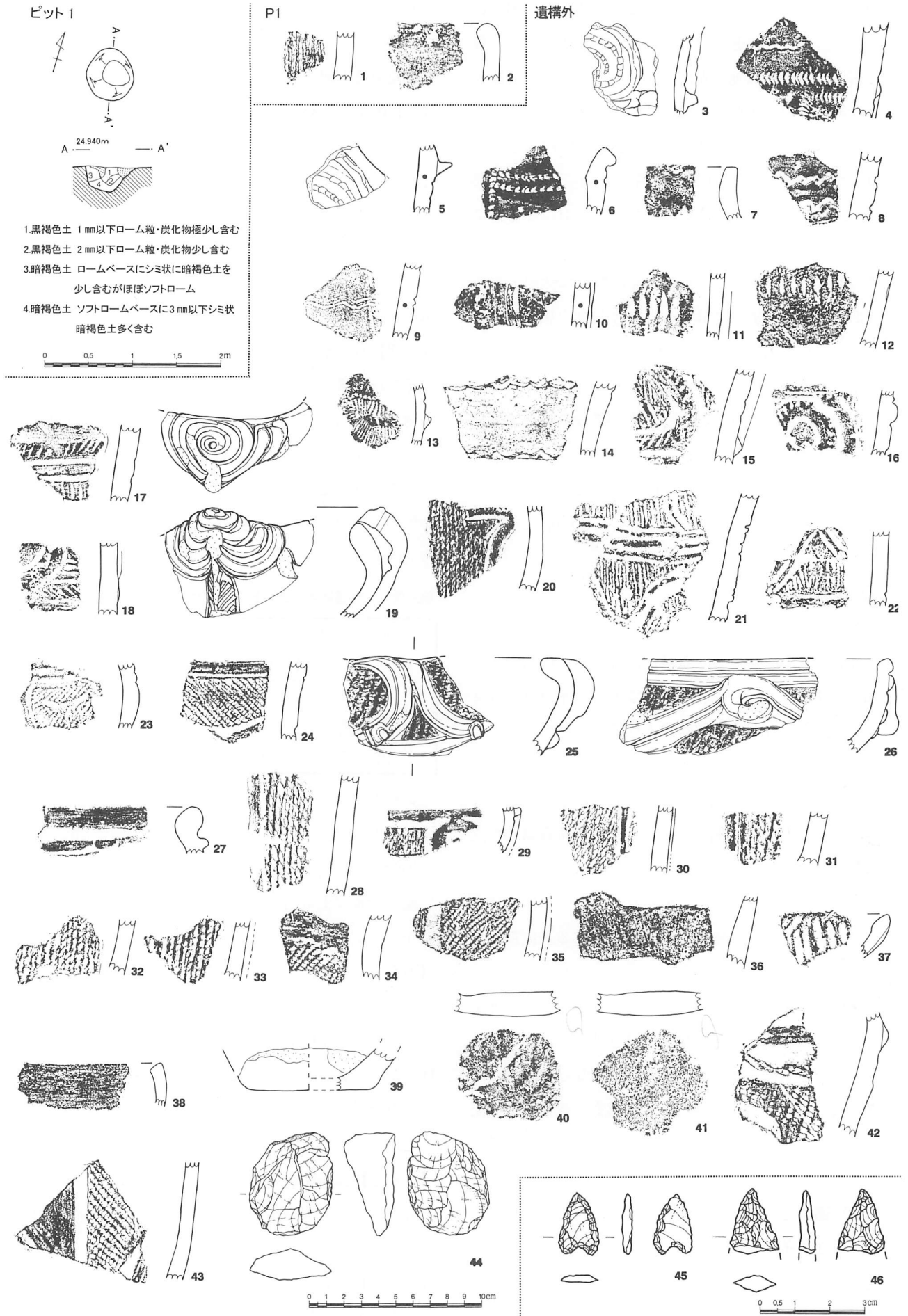
調査区西側で縄文時代のピット1基を検出した。平面形態は楕円形を呈し、規模は確認面径62×52cm、底径32×27cm、深さ29.1cmを測る。

④ピット1・遺構外出土遺物

1・2はピット1出土で、1は地文撚糸文、2は浅鉢形土器の無文口縁部片である。3～45は遺構外出土である。3は口縁部文様帯の破片で押引文を2列に入れ明褐色を呈する。4は深鉢形土器の胴下半部文様帯で三角押文と波状文を入れる。3と4は勝坂Ⅰ式である。5は深鉢形土器の山形把手で複列の角押文をもち6は複列の三角押引文をもつ。7は口縁部近くから指頭圧痕がある。8・9は押引による波状文がある。10・11は断面三角形の懸垂文があり、11・12は連続爪形文を入れる。5～12は胎土に金雲母を多く含む阿玉台Ⅱ式である。13は爪形文を回転させ芋虫文様をつくり端を三角押文で囲む勝坂Ⅱ式古相である。14は蓮花状文の一部が残り、15～18は刻目隆帯で楕円形区画をつくる勝坂Ⅲ式の胴部片である。25は立体的な楕円形区画に



第95図 東台遺跡83号住居跡出土土器 (1/3)



第96図 東台遺跡第37地点ピット・遺構外出土遺物 (1/60・1/3・2/3)

押圧を加え、区画内の地文は縄文である。19は渦巻いて高く突出する波頭下に押引沈線を入れる異系統土器である。21・22は地文条線、20・23・24は地文の撚糸文や縄文の上に半截竹管による沈線を多用する大木8b系土器である。26は突出した渦巻文と区画文をもつ地文撚糸文の中型深鉢形土器片である。27は口唇部で、28～33は地文撚糸文の胴部片で28～31は隆帯による懸垂文がある。34と35は地文縄文の胴部片である。25～35は加曽利EⅠ期である。36は無文深鉢形土器の胴部片である。37は深鉢形土器で重弧文を施す。38は小型深鉢形土器片である。40・41は底部片、42・43は地文の縄文を弧状に広く磨消す加曽利EⅢ式である。立体的な楕円形区画に押圧を加え、区画内の地文は縄文である。

44はスクレイパーで重さ74.9g、45は黒曜石の石鏃で重さ0.5g、46はチャートの石鏃で重さ1.0gである。

6 東台遺跡第38地点

(1) 調査の概要

調査は共同住宅（東台遺跡第34地点）の砂利敷き駐車場造成に伴うもので、原因者より2001年11月8日付で「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の東部に位置する。

調査は隣接する第34地点、36地点の調査と継続して行なった。開発区南側の約1/4は隣接する第36地点の調査時に行なった。残りの北側部分の調査を1月28日から南北方向に幅約2.3mのトレンチ4本を設定し、重機による表土除去の後、人力による表面精査を行なった。

調査の結果、縄文時代の住居跡の炉跡1ヶ所、縄文時代の竪穴状遺構1基・集石土坑2基・土坑1基・ピット1を検出したが、調査区の北側部分は第34地点同様に天地返しがされていた。写真撮影・遺構測量等記録を行ない、2月15日埋め戻しをして調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

①84号住居跡

【位置】遺跡の東部で、東側環状集落の一部に位置する。

【形状】天地返しの攪乱により住居跡の大部分は削平されていたが、攪乱部分に遺物がやや多く出土したこ

とと、炉跡とみられる焼土の広がりや柱穴とみられるピット2基が確認されたため住居跡とした。全体の形態や規模は不明である。

【炉】削平のため掘り込みはなく、瓢箪型の焼土範囲を検出した。規模は52×38cmである。

【ピット】2本のピットを検出した。P1の平面形態は隅丸長方形で規模は確認面径21～30cm、底径8～13cm、深さ48.8cmを測る。P2の平面形態は楕円形で規模は確認面径22～29cm、底径8～11cm、深さ38.7cmを測る。

【時期】時期不明である。

②竪穴状遺構

調査区の南東部に位置する。平面形態は隅丸方形と円形の中間で、規模は上端南北322×東西330cm、底部南北272×東西265cm、深さ31.3cmを測る。底部はほぼ平坦で4つのピットを有する。阿玉台または勝坂式期の遺構の可能性が高い。

第22表 東台遺跡第36地点竪穴状遺構内ピット一覧表 単位cm

	形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	40～45	13～15	54	
2	円形	36～43	22～27	21.2	
3	円形	28～36	15～18	12.2	
4	円形	21～30	7～14	17.1	

③集石土坑

【集石土坑1】土坑プランは楕円形で上端の規模は147×108cm、深さは確認面より最深部で20cmを測る。

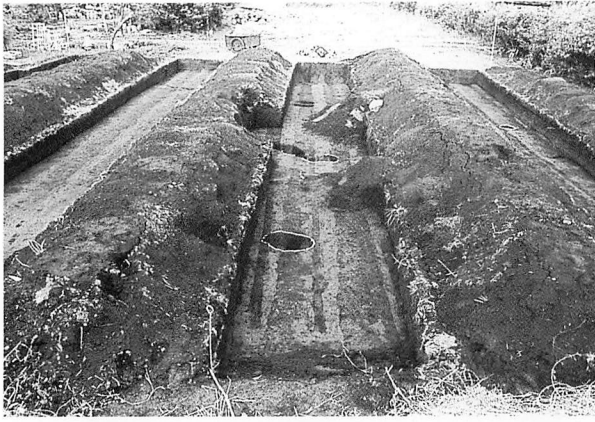
礫の分布は土坑内の南部に集中する。縄文土器片が僅かに出土した。

【集石土坑2】土坑プランは楕円形で上端の規模は116×97cm、深さは確認面よりピット最深部で34.4cmを測る。土坑内に楕円形のピット1がある。ピットの平面は三角形で上端34×27cmを測る。礫の密度は薄く土坑内の南部に集中する。

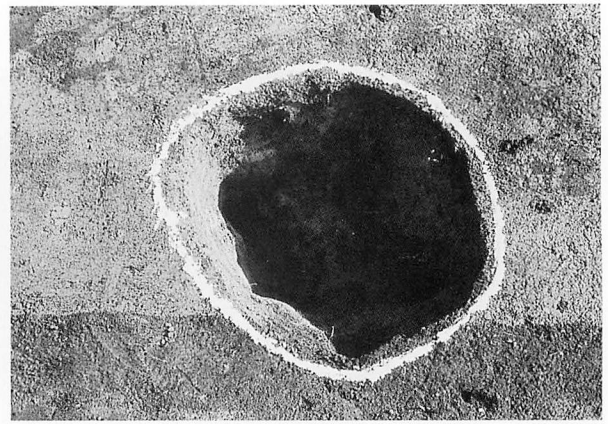
④土坑

【土坑1】調査区の南西部に位置する。平面形態は楕円形を呈する。規模は上端188×148cm、底径135×120cm、深さは確認面から20.7cmを測る。

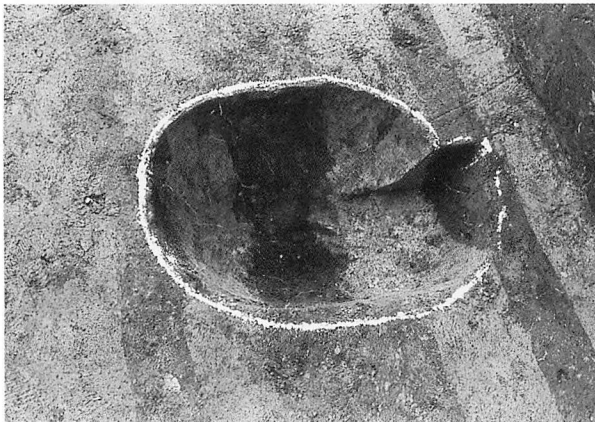
【土坑2】調査区の南東部に位置する。平面形態は楕円形を呈する。規模は上端155×131cm、底径118×100cm、深さは確認面から42.5cmを測る。



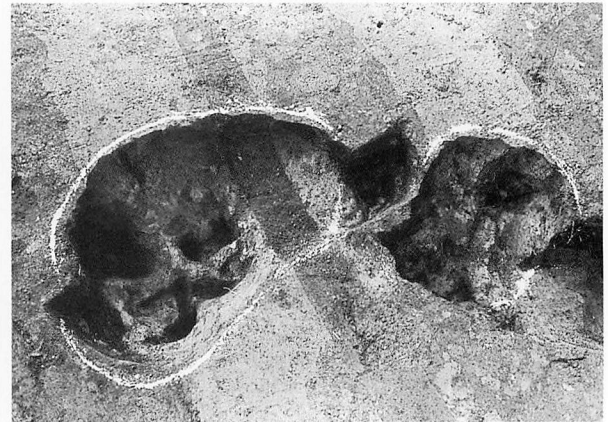
東台遺跡第36地点トレンチ1～3



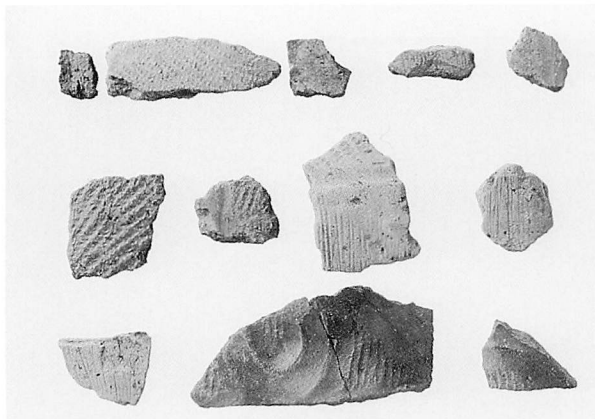
東台遺跡第36地点ピット1



東台遺跡第36地点ピット2



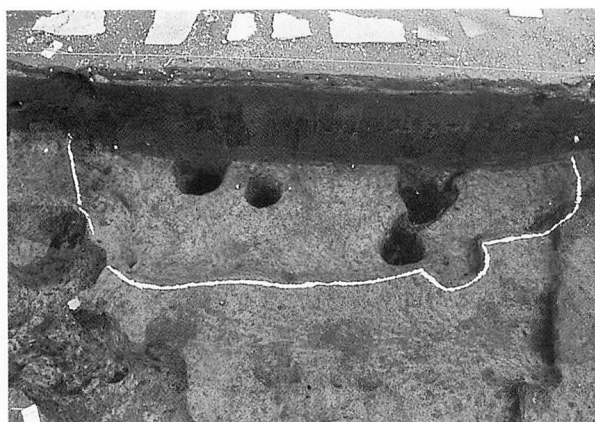
東台遺跡第36地点ピット3～5



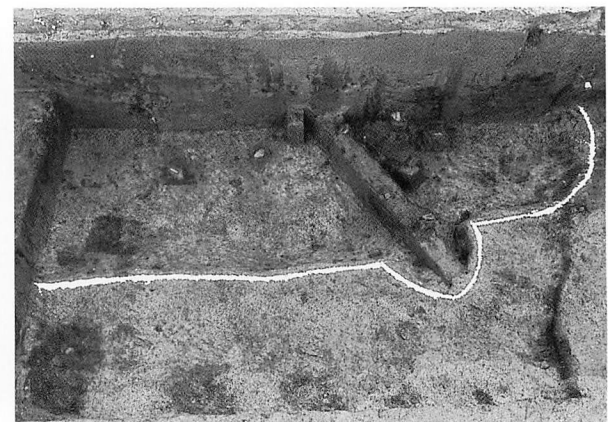
東台遺跡第36地点出土遺物



東台遺跡第37地点調査区近景



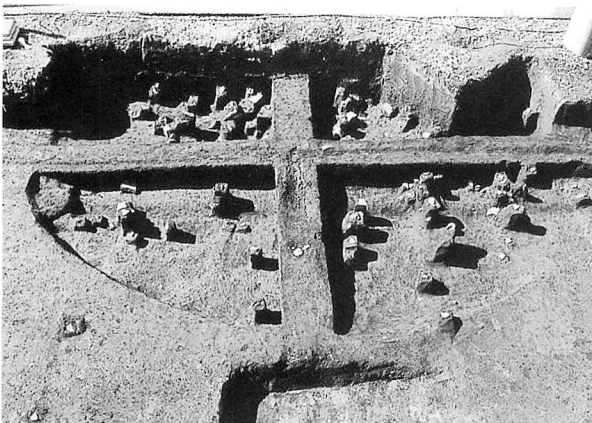
東台遺跡83号住居跡



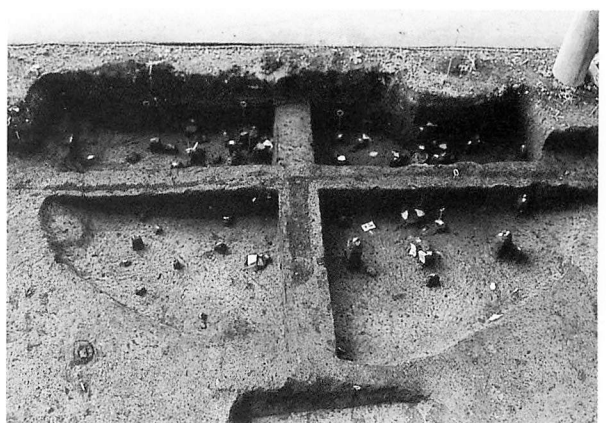
東台遺跡83号住居跡遺物出土状況



東台遺跡82号住居跡



東台遺跡82号住居跡遺物出土状況



東台遺跡82号住居跡遺物出土状況



東台遺跡82号住居跡炉



東台遺跡82号住居跡炉



東台遺跡第37地点ピット1



東台遺跡第37地点調査区全景



No. 1



No. 4



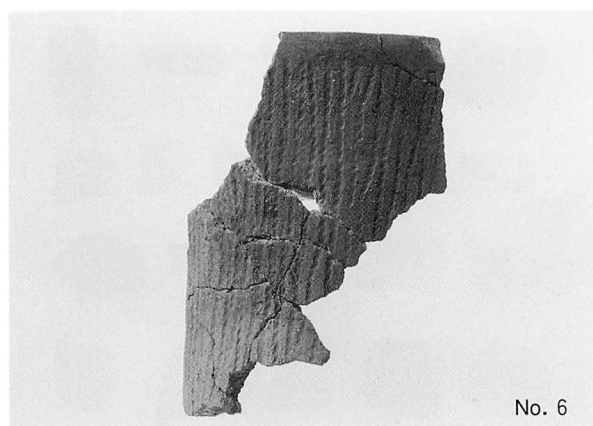
No. 2



No. 5

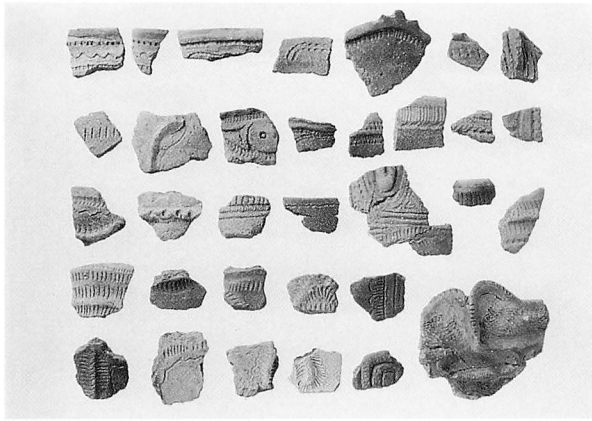


No. 3

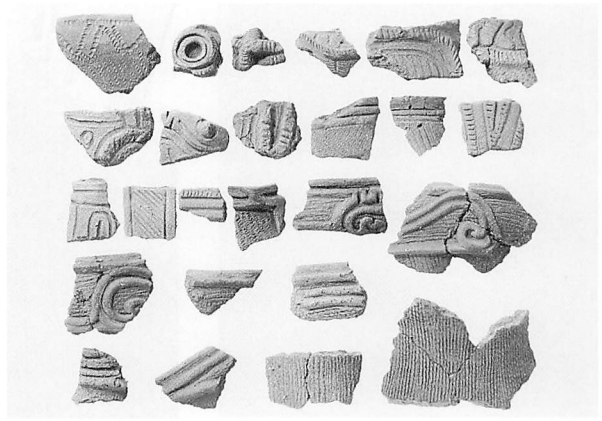


No. 6

東台遺跡82号住居跡出土土器 (No. 1～6)



東台遺跡82号住居跡出土土器 (No. 7 ~ 39)



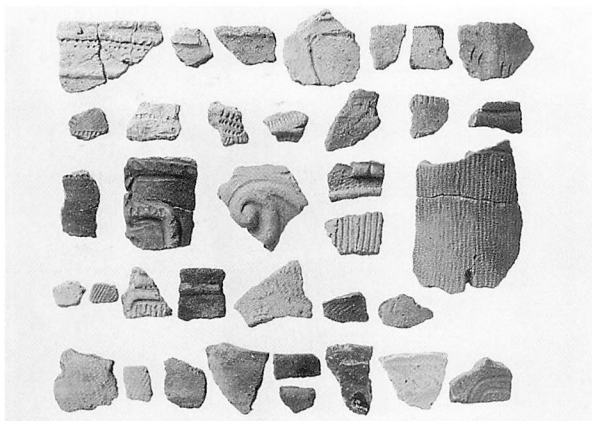
東台遺跡82号住居跡出土土器 (No. 40 ~ 64)



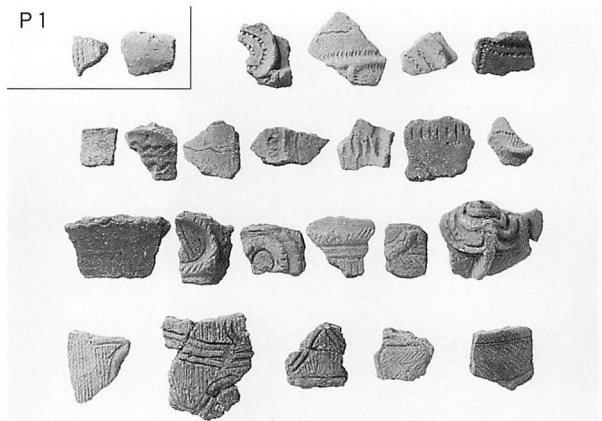
東台遺跡82号住居跡出土土器 (No. 65 ~ 90)



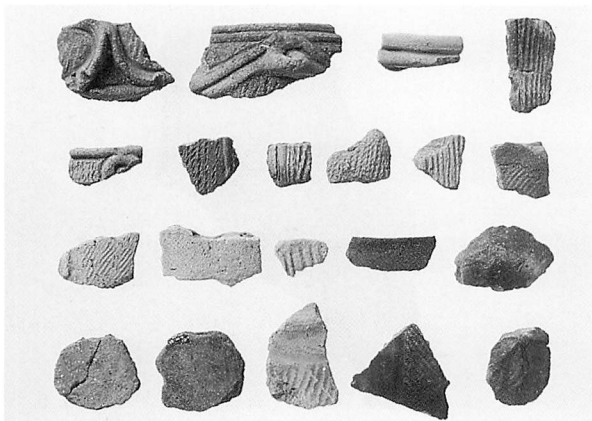
東台遺跡82号住居跡出土石器 (表・裏)



東台遺跡83号住居跡出土土器 (No. 1 ~ 36)



東台遺跡第37地点ピット1・遺構外出土遺物 (No. 3 ~ 24)



東台遺跡第37地点遺構外出土遺物 (No. 25 ~ 44)



東台遺跡第37地点出土遺物 (No. 45・46表・裏)